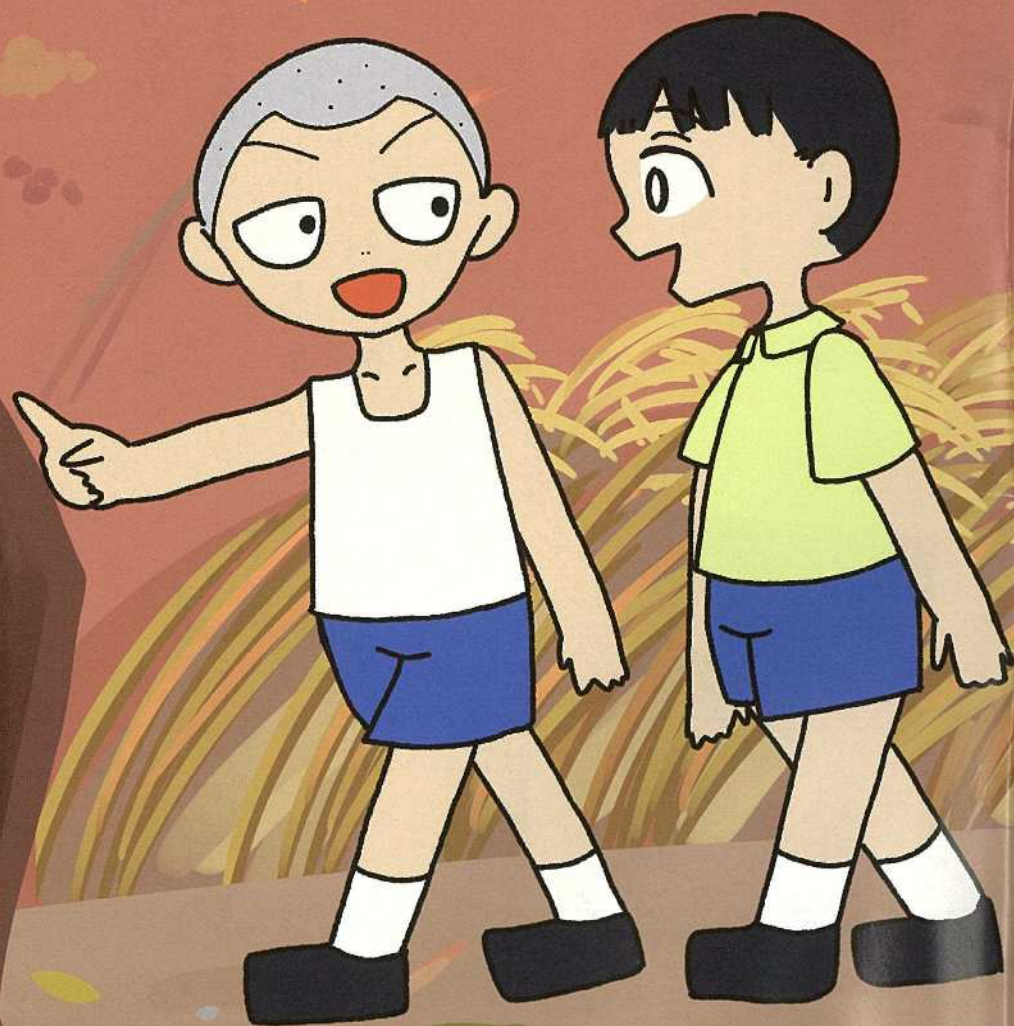


実い多き未来へ

～讓治と結ぶ人とのきずな～



ノートルダム清心女子大学日本語日本文学科
「ツボジョーワールド探検隊」による
坪田讓治紹介冊子

目次

坪田譲治の逆境と思いやりの心	3
童話「けんかタロウとけんかジロウ」	
作品紹介	5
紙芝居で読もう！	6
童話「きつねとぶどう」	
作品紹介	13
漫画で読もう！	14
童話「ケイちゃんとかきのたね」	
作品紹介	19
体操で味わおう！	20
「ツボジョーワールド探検隊」より	25



八〇代、
笑顔の坪田譲治
(一九七五年頃)



キャラクターは「きつねとぶどう」より

こんにちは！ 僕たちは、坪田譲治さんが生み出してくれた
童話「けんかタロウとけんかジロウ」のタロウとジロウです！
この冊子では、現代のみんなに譲治さんが文学のなかで描い
た平和への願いを受け取ってもらえるように、譲治さんの作品
に描かれたへんへの思いやりとそのあたたかなまなざしを僕
たちが伝えるよ。

譲治さんは、「どんなことがあっても、人と争いをすまい」と
思う経験が過去にあったんだって。けんかしていた僕たちを
仲直りさせてくれたのも、そんな経験があったからなのかな。

じゃあ、はじめに譲治さんについて紹介するよ！



タロウ



ジロウ

キャラクターは「けんかタロウとけんかジロウ」より

しょうじ 譲治が行った思いやりの活動

せんちゅう 戦中 たいせんちゅう 第二次世界大戦中の子ども^{しゅっぱん}の作文集出版
 例) 坪田譲治編『父は戦に』(1940年9月新潮社)
 『家のほまれ』(1944年5月西村書店)

せんご 戦後 たいせんご 第二次世界大戦後の子どもたちの生活を作品化
 例) 「柿の木と少年」(『明日』1948年5月)
 「夏の夢冬の夢」(『童話教室』1948年10月)



しょうじ 譲治さんは人々を思いやり、子どもたちに寄り添いたいという自分の想いを形にした活動を積極的に行っていたんだね！

作家として子どもたちの声を作品にすることで、彼らの声を広く人々に伝えようとしたんだ。

しょうじ 譲治の想いは、これから紹介する作品の中にも表れているよ！

つばたしょうじ ぎやつきょう 坪田譲治の逆境と思いやりの心

しょうじ ぎやつきょう けいけん 譲治の逆境の経験

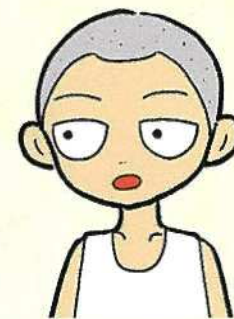
1898年	8歳	父親を亡くす
1909年	19歳	生死の問題に悩み大学を退学し、5ヵ月後に再入学
1930年	40歳	兄、そして母を亡くす
1933年	43歳	しまだせいしよくじょ 島田製織所(家業)での争いにより失職
1936年	46歳	このころまで3年にわたって家族が貧困に陥る



つばたしょうじ 40代の坪田譲治

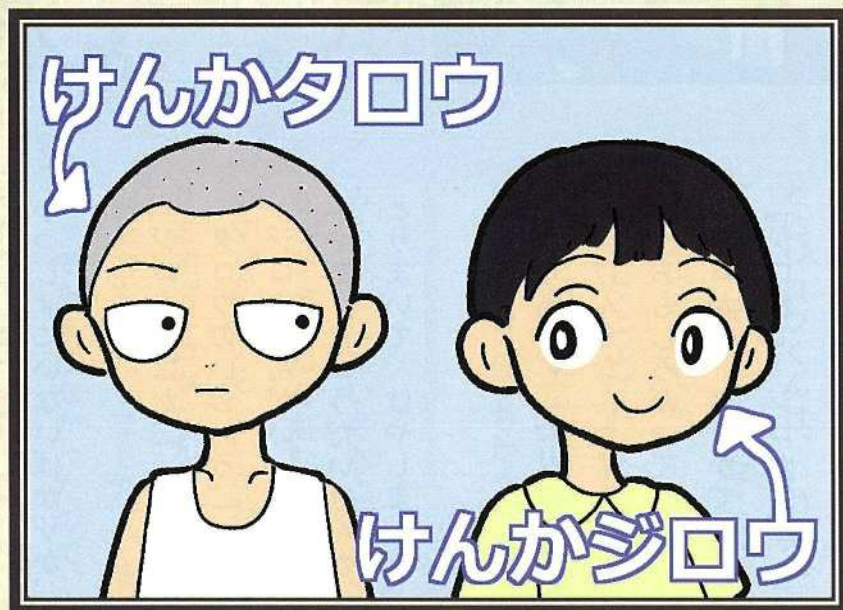
家族の死やしまだせいしよくじょ 島田製織所での身内同士の争いなど、しょうじ 譲治さんは生きている間にたくさんのつらい経験をしたんだ。

だからこそしょうじ 譲治さんは、同じように苦しむ人々の想いに寄り添うことができたんだね。



かみしばい
紙芝居で読もう！

「けんかタロウとけんかジロウ」



いなかのがっこうに、タロウ
くんとジロウくんというふた
りのこどもがありました。ふた
りは、きょうだいではありません
でした。それなのに、こんなま
えでしたから、みんなからあにや
おとうとのようにいわれまし
た。

「タロウくん、おとうとがない
てるよ。」

「ジロウ、にいさんがいじめら
れてるぞ。」

そんなことをいってからか
ったりするのです。

童話「けんかタロウとけんかジロウ」 しょうかい 作品紹介

「けんかタロウとけんかジロウ」は1947年5月に雑誌『小学二年生』
(小学館)で発表された、タロウとジロウの2人の子どものお話です。

作中ではタロウとジロウがケンカする場面が描かれていますが、
実際に譲治自身も家業について親族と争った経験があり、そのことを
以下のように述べています。

叔父ばかりを利慾の権化のよ
うに考えながら、私達四人の兄
弟がやはり利慾の鬼と化してい
たのである。きっと叔父に於て
も、私達の言分同様相当の弁解
があるに違いない。

(中略)

「此後はどうなことがあつて
も、人と争いをすまい」とは深
く心に期するところである。そ
れは国と国との場合に於ても同
様と考える。

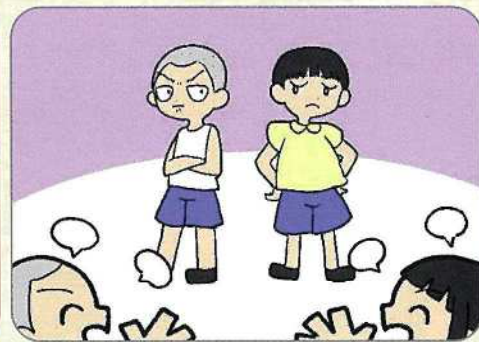
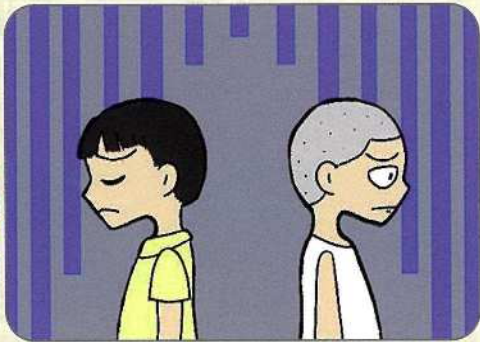
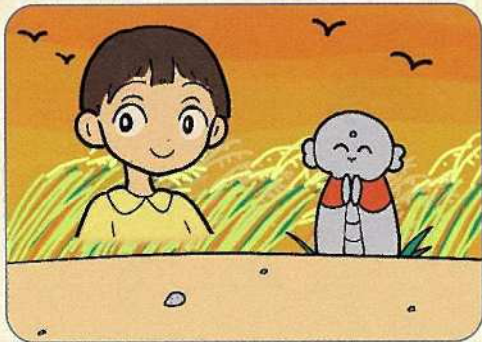
『店の争奪』『都新聞』

一九三五年二月四回連載



譲治さん自身も人と争った経験があるんだね。
その時の辛い思いと反省の念が
「人と争いをすまい」
という気持ちあふれる作品となって表れているね。

次ページから譲治さんの書いた
童話「けんかタロウとけんかジロウ」を
かみしばい
紙芝居にしてみたよ！



それでふたりは、なるべく、いっしょにいないことにしました。いっしょにいないばかりか、いつとなく、ながわるくなりました。

「ジロウのばか。」タロウくんがいえば、

「タロウのいじわる。」

ジロウくんがいました。すると、みんなはおもしろがって、「やあーきようだいげんか、きようだいげんか。」と、まわりをとりまいて、はやしました。

こうなると、ふたりは、そのままだまっておれなくて、つかみあいのけんかなんかすることがありました。みんなはそれで、いっそうおもしろがって、

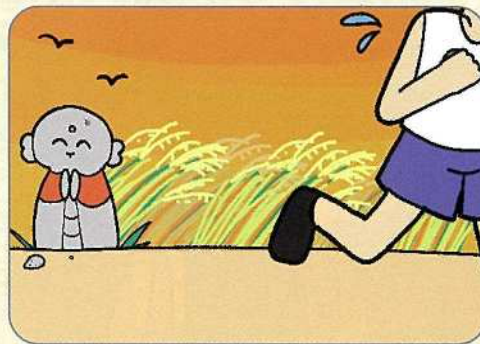
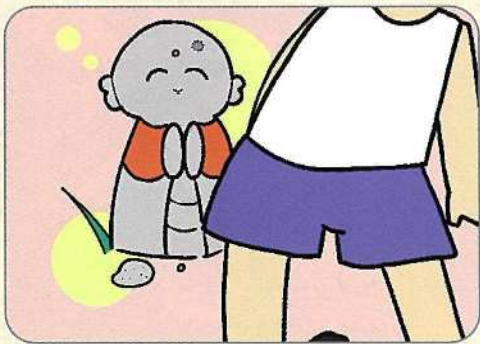
「タロかて、タロかて。」とはやしたり、

「ジロかて、ジロかて。」とはやしたりしました。

ふたりはほんとうは、けんかなんかしたくなかったのです。ことにジロウくんは、いつもニコニコしている、いいこもだったのです。それがこんなことで、たびたびけんかをするようになりました。そしてふたりはとうとう、みんなからけんかタロウけんかジロウとよばれるようになりました。

ある日、ふたりはまたけんかをしました。そのかえりみちタロウくんがむらのちかくへやってきますと、

みちばたにちいさなこどものおじぞうさんがたっていました。もうひやくねんもむかしから、そこにたっているおじぞうさんです。かわいらしいかおをしていて、いつもニコニコわらっておられます。タロウくんは、それを見ると、ジロウくんのニコニコがおおもいだしました。いまけんかをしたばかりで、しゃくにさわってたまらなかったので、タロウくんは、みちにおちてたいしをひろうと、

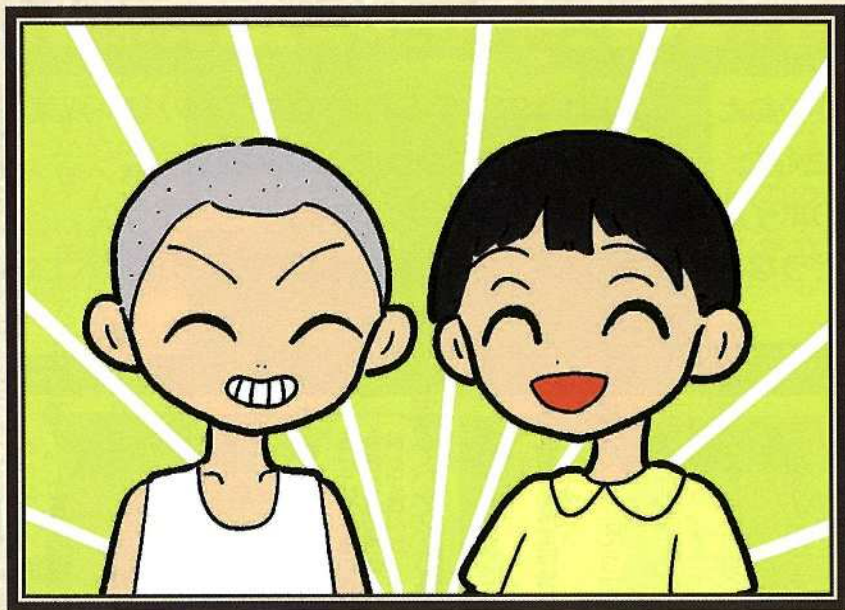


ちからいっぱい、そのおじょうさんにぶっつけました。
いしはおじょうさんのひたいにあたり、そこがポコッとかけ
ておちました。

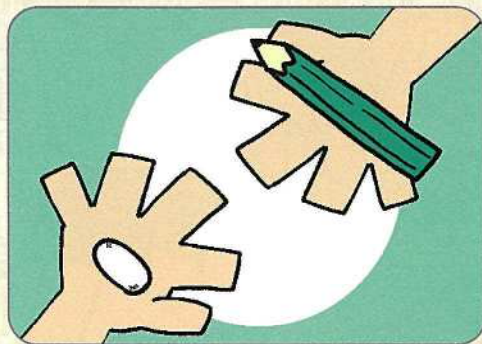
しかしいしのおじょうさんですから、いたいともいわず、やはり
ニコニコわらっていました。タロウくんはこれを見ると、たいへ
んきががめて、にげるようにはしってかえりました。

あくるあさ、タロウくんは、そのみちをやってきて、おじぞう
さんのかおをみました。おじぞうさんは、ひたいにきずをしなが
ら、やはりニコニコわらっていました。タロウくんは、またきが
とがめてそこをはしってとりました。

そのあくるあさ、タロウくんは、またおじぞうさんにあいまし
た。やっぱりおじぞうさんは、ニコニコしております。タロウく
んは、すっかりこまりました。



それから、ふたりはすっかりなかよしになり、ほんとうのきょうだいのようになりました。みんなは、もうけんかタロウとも、けんかジロウとも、いわなくなりました。なかよしタロウなかよしジロウというようになったのです。



ちょうどひとりでしたので、おじぞうさんのまえに、あたまをさげ、

「おじぞうさん、おゆるしてください。」

と、おわびしました。ころのなかでは、

「もうけんかはいたしません。」

といいました。

そして、その日がっこうでジロウくんにあうと、

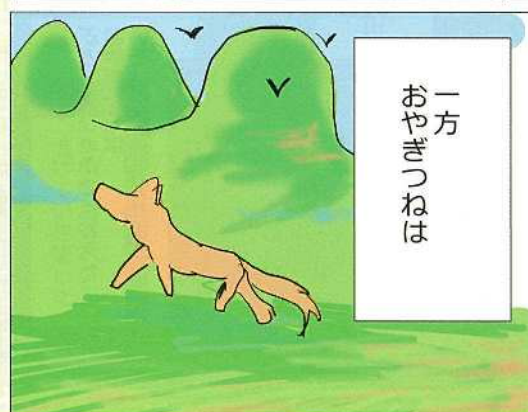
「ジロウくん、これやるよ。」

そういつてエンピツをやりました。ジロウくんはびっくりしました。それでもすまないとおもって、

「じゃ——ぼくはこれをやるよ。」

そういつてケシゴムをやりました。

まんが 漫画で読もう！「きつねとぶどう」



しょうかい 童話「きつねとぶどう」作品紹介

「きつねとぶどう」は1946年6月に雑誌『フタバ』（ふたば双葉書店）で発表された、こぎつねとおやぎつねの2匹のお話です。

話のポイントとなるのはぶどうの木です。

ぶどうなどの果物の木について譲治は以下のように述べています。

じつは、私は種をまくということが好きなのです。カキの種、モモの種、ナシの種、クリの種。花の種より、こういうクダモノの種をまくのが好きなのです。

（中略）

欲のない、しかも大きな愛情をもった人間が、いつも子供の側にいて、じつと見つめて守っていてくれるとしたら、どうでしょう。それこそ、神さまのような人です。昔は、人はみんな自分を守ってくれる神さまを持っていたそうですが、私は、このモモ、ナシ、カキ、クリのような木が、その守護神のようにも思われます。

（『少年の国』あとがき）『少年の国』

一九五四年八月新潮社

譲治さん自身も果物のなる木に対して

親しみがあったんだ！

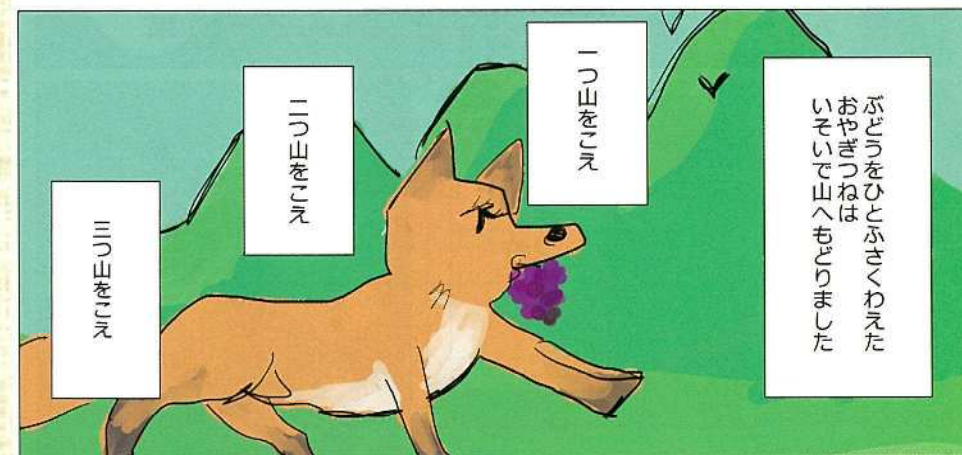
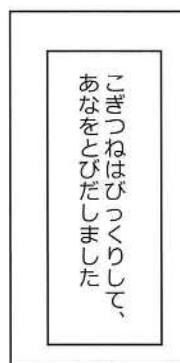
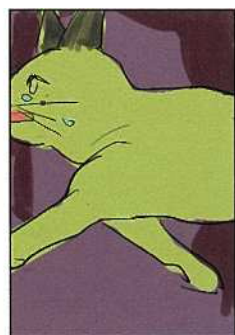
同じ場所で子どもを見守り続ける果物の木が、

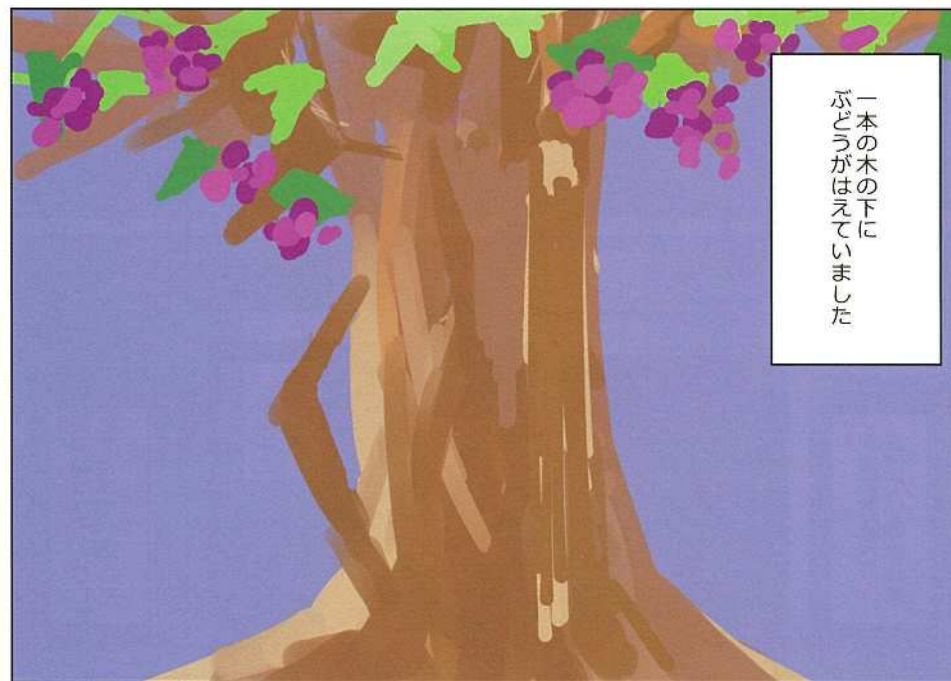
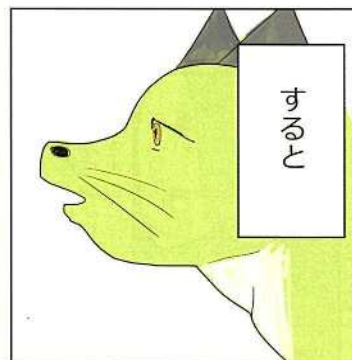
親のように無償の愛を注ぐ神様みたいに

思っていたんだね。



次ページから譲治さんの書いた童話「きつねとぶどう」を漫画にしてみたよ！





たいそう 体操で味わおう！「ケイちゃんとかきのたね」

この体操は、「ケイちゃんとかきのたね」のエピソードをもとに、
ツボジョーワールド探検隊が歌や動きを考えました。

楽しく体を動かして「ケイちゃんとかきのたね」の世界を体感しましょう。

- | | |
|-------------|--------------|
| ① さあ、冒険しようよ | ぼくらはツボジョー探検隊 |
| ② さあ、冒険しようよ | ぼくらはツボジョー探検隊 |
| ③ ケイちゃん 町から | 村へ来た |
| ④ 一人で | 毎日 おるすばん |
| ⑤ 遊んで 待ったよ | かきのたね |
| ⑥ 大きな かきの木 | あつたらな |
| ⑦ ケイちゃん 頼んだ | 友達に |
| ⑧ 畑の かきの木 | 登らせて！ |
| ⑨ お礼に せんべい | あげるから！ |
| ⑩ ケイちゃん 木登り | したことない |
| ⑪ 力をこめて | ケイちゃんを一緒に |
| ⑫ ケイちゃん 練習 | 頑張った |
| ⑬ 一人で | 木登り |
| ⑭ それから | るすばん 木の上で |
| ⑮ 歌をうたって | ニッコニコ |

しょうかい 童話「ケイちゃんとかきのたね」作品紹介

「ケイちゃんとかきのたね」（『ねずみのいびき』1973 年 7 月 講談社）
は、譲治が 83 歳の時に発表した、町の子のケイちゃんと村の子供たちの実話
をもとにしたお話です。

【お話の内容】

ある日、ケイちゃんは村に引っ越してきました。お父さんとお母さんが仕事の間はいつも一人でお留守番です。留守番中、ケイちゃんのかきのたねで遊んでいましたが、「大きなかきの木があれば、登ってお父さんお母さんを待てるのにな…」と思うようになりました。そこでケイちゃんは村の友達に、せんべいをお礼にあげるから畑のかきの木に登らせて欲しいとお願いをします。しかし、ケイちゃんは町の子なので、木登りをしたことがありません。そんなケイちゃんを村の子供たちはみんなで応援しました。ケイちゃんはみんなに助けられながら練習を頑張って、一人で木に登れるようになりました。ケイちゃんは嬉しくて、留守番はかきの木の上で、歌をうたいながら過ごすようになりました。

実話がもとになっているから、「きつねとぶどう」でも感じられるような譲治の木や果物に対する親しみの気持ちや、思いやりの心がこの作品を通して伝わってくるね。



次のページから、音楽に合わせて楽しく
身体を動かして、お話を体感しよう！

たいそう
体操で味わおう! 「ケイちゃんとかきのたね」

さあ、みんなでツボジョー体操「ケイちゃんとかきのたね」に合わせて
体を動かしてみよう! 座っていても簡単にできるよ!

腕をふって、

上へつき出す!

①②

さあ、冒険しようよ

ぼくらはツボジョー

探検隊

前に手を出して引くを、2回くり返すよ

止まって

③⑤⑦

ケイちゃん

町から

村へ来た

ツボジョー体操 ～「ケイちゃんとかきのたね」～

♩ = 90

作詞・作曲 ツボジョーワールド探検隊



さあ ぼうけん しょうよ ぼくらは ツボジョー たんけんたい



ケイちゃん - まちから - むらへ - き - た
あそんで - まったよ - かき - の - た - ね
ケイちゃん - たのんだ - と - も - だ - ち - に



ひとりで - まいにち - おーるーすーばんー
おおきな - かきのき - あったらな -
はたけの - かきのき - のーばーらーせてー



おれ いに せん べい あげるか らー!

ケイちゃん きのぼり



したくない とおだち みんなで おうえんだ ちからを こめてー



ケイちゃんを いっしょに ひっばる エンヤコラ エンヤコラ



ケイちゃんれんしゅう がんばって ひとりできのぼり できました

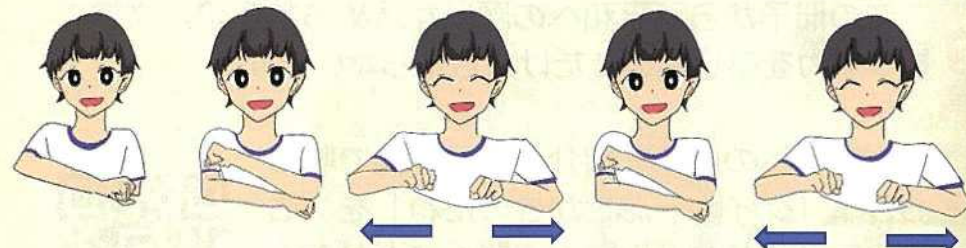
それから るばんきのうで うたをうたって

ニッコニコ

(ケイちゃん木登りしたことない)と同じ動きだよ



力をこめてケイちゃんを



一緒に 引っ張る エンヤコラ エンヤコラ

ここも前に手を出して引くを、2回くり返すよ。

うでをグルグルまわそう



ケイちゃん練習

がんばって



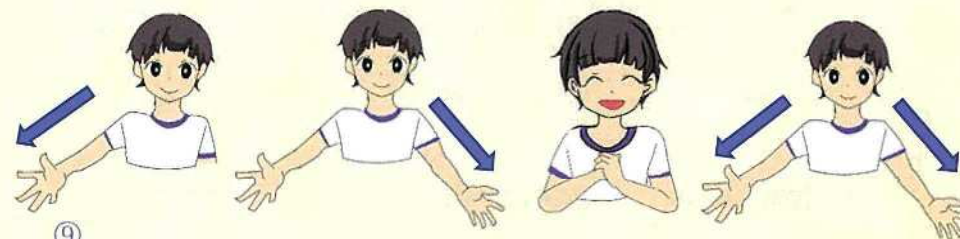
一人で木登り

できました

左右にゆらゆら。4回ずつ



一人で毎日あるすぽん



お礼に せんべい あげるから！

(ケイちゃん木登り)手を上へ上へ重ねる

(したことない)下へ下へ重ねる



ケイちゃん木登りしたことない

クロスして…ガッツポーズ！



ともだち 友達

みんなで

おうえん 応援だ

○お世話になった方々

坪田 理基男さん

坪田 眞紀さん

村中 李衣先生（ノートルダム清心女子大学教授）

Bae Junsub先生（ノートルダム清心女子大学 非常勤講師）

熊澤 住子先生（元ノートルダム清心女子大学教授）

○「ツボジョーワールド探検隊」編集部

藤井 心音

吉岡 寿梨

椛島 亜矢

鎌田 栞璃

原野 玲奈

藤澤 さくら

山崎 ふう花

監修 山根 知子・長原 しのぶ・近藤 友子

（ノートルダム清心女子大学 日本語日本文学科「総合探究Ⅰ」）

写真提供 坪田 理基男さん・坪田 眞紀さん

出典 譲治作品の引用は『坪田譲治全集』（新潮社）による



実り多き未来へ ～譲治と結ぶ人とのきずな～

発行日 2022年9月15日

発行者 ノートルダム清心女子大学 日本語日本文学科「総合探究Ⅰ」

岡山市北区伊福町 2-16-9 電話（086）252-2695

印刷所 （有）ダイニ印刷

《岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進事業」参加プロジェクト》

「ツボジョーワールド探検隊」より

本冊子を手にとっていただき、ありがとうございました。
タロウとジロウの案内はいかがだったでしょうか。

今年で活動 6 年目になるわたしたち「ツボジョーワールド探検隊」は、今回、坪田譲治が作品のなかで描いた〈人への思いやり〉に注目し、そうした作品を紙芝居、漫画、体操などで表現ご紹介しました。

この冊子から、平和への願いが込められた譲治文学の持つ魅力を感じていただけたら幸いです。

また、この冊子で紹介した《体操で味わおう！「ケイちゃんとかきのたね」》を、右のQRコードを読み取って聞くことができます！是非聞いてみて下さい！



○隊員より ～坪田譲治紹介冊子を作成して～

- ・思いやりの心を持って、みんなの生きる大切な社会をみんなで一緒に作っていききたいです。（吉岡）
- ・譲治さんのような優しい心をみんながもてるといいと思います。（山崎・藤井）
- ・わたしたちは誰かに想われて生きているんだなと感じました。（椛島・鎌田）
- ・譲治さんの文学には現代にもつながる思いやりの視点があつたんですね。（原野）
- ・お互いを思いやって生きていくことは難しいと思いますが、とても大切なことなんだと感じました。（藤澤）